

皆さん、こんにちは。コール
デンウイークが待ち遠しい季節
になりました。でも、朝晩は冷
え込む日もあります。平成最後
の月。くれぐれもご自愛ください
い。

日常会話の中に登場する仏教用語をお伝えしているかわら版。少しでも読者の皆さんのお役に立てば幸いです。

新年度になり、就職転勤、入学や転校で新たな生活を始めた人も多いと思います。新しい同僚や新しい友人との出会い、新しい世界の始まりです。

この「世界」も仏教用語です。一昨年十月のかわら版でお伝えしました。

「ワールド」の日本語訳として用いられますので、これが仏教用語だとはなかなか気づきません。

仏教では「ひとりの人間にはひとつ的世界がある」と教えます。一人ひとりに世界があると いうのです。「自我」「自分」というものを中心（国王）として、見渡す限りを自分の世界（領土）と考え、何でも思い通りにした

「世間体が悪い」「世間に顔向けができない」「世間の物笑いの種になる」などの使い方がされます。「世の中」「社会」という意味で使われています。

「世界」の本来の意味から「世間」を考えると、一人ひとりが持つていて「世界」と「世界」の「間」ということです。

「世間体が悪い」とは、自分の価値観や判断基準で判断しているから「世間体が悪い」ので

「自分」の「世界」の「欲」や「執着」に囚われれば、別の「世界」を持つ他人が納得するはずがないません。「世間（せけん）」は難しいですねえ。

「近法」で支配された「世界」です。誰もが同様に一人ひとりの「世界」があること、その「世界」に囚われていることを理解していれば、日頃の人間関係も変わつてしまふですね。

す。他の人の「世界」からの見
られ方を自分の「世界」の価値
観や判断基準で勝手の想像して
いるわけですから、ずいぶん自
分の「欲」や「執着」に囚われ
ているとも言えますね。

かわら版

発行編集部
大塚耕平事務所
☎052-757-1955
kouhei@oh-kouhei.org



耕平さんかわら版

益行編集部

大塚耕平事務所

052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

大塚耕平の仏教シリーズ好評販売中！

